

令和2年度 中学生の「税についての作文」 優秀作品紹介

11月15日、令和2年度中学生の「税についての作文」表彰式が玉名市で開催されました。

今年度は荒尾玉名地域の中学生3,935人から801編の応募があり、その中から、和水町からは4人の生徒が表彰されました。また、「税についての作文」の募集について、特に協力が顕著な中学校として三加和中学校に国税庁長官と全国納税貯蓄組合連合会から感謝状が贈られました。



- ・熊本県知事賞……………鍋島 彩里（三加和中学校2年）
- ・和水町長賞……………中原 遼大（三加和中学校2年）
- ・和水町教育長賞……………渡邊 美咲（菊水中学校3年）
- ・公益社団法人玉名法人会会長賞……………平 美鈴（三加和中学校3年）
- ・租税教育推進功績者等表彰 国税庁長官感謝状……三加和中学校
- ・全国納税貯蓄組合連合会 作文募集推進校感謝状…三加和中学校

熊本県知事賞



三加和中学校 二年 鍋島 彩里

『私達の生活、命を守る税金』

平成二十五年、八月、あんなにも恐ろしいことが起きるなんて誰一人思っていなかった。その日の前日、姉が発熱し、両親が明日は病院に行ったほうが良さそうだと話していた。そして当日、大牟田のかかりつけ病院に母と姉、私、三人で行き、家に帰ってきたところだった。当たり前のように母が寝ている姉に「着いたよ。起きて。」と言った。しかし、姉からはなんの反応もなかった。ゆずっても起きない。名前を呼んでも起きない。車の中の空気が一瞬でピリピリとした空気に変わった。姉の意識が無くなっていたのだ。この時、私は初めてあんなにもあせっている母を目の当たりにした。そして、何をされても決して目を開かない姉を。あせりながらも母は救急車を呼んだ。私の何倍不安だったことだろう。病院に着いて

どんなことがあったのか分からないが、

姉は意識を取り戻した。両親の不安と安心は、はかり知れないほどのものだったことだろう。姉は何週間か入院し、無事に元気な姿になって退院することができた。

当時小学一年生だった私はこんなに深く考えたことはなかったが、姉の命を救ってくれたものの中に「税金」もあるのではないかと思った。もちろん、医師や看護師の方々のおかげでもある。しかし、税金がなかったら、いち早く救急車を呼ぶことはできただろうか。救急車を一回呼ぶのにかかる四万五千元は、決して安い額ではない。そう考えると、税金はこれまでどれほどの人々の命、生活を救ってきたことだろうか。と、とてもすばらしい物だと心から思えた。姉は今、看護師を目指している。あの日自分の命を救ってくれた方々のようになりたいと思ったのだろうか。

私達の生活は税金であふれている。その恩は決して忘れてはならない。私たちはまだ税金を支払うことはできないが、税金によって支払われている物を大切にすることはできる。まだまだ知らない税について、正しい知識を身につけ、払える立場になったときは、誇りをもって支払っていききたい。なぜなら税金はたくさんの人々の生活、そして命までも守るすばらしい物なのだから。

和水町長賞



三加和中学校 二年 中原 遼大

『税の大切さ』

僕は今まで税金にお世話になったこと、なっていることが三つあります。

一つ目は、おじいちゃんが救急車で運ばれたことです。僕のおじいちゃんは三年前に脳梗塞という病気で呂律が回らなくなり救急車ですぐに大きな病院に行きました。お医者さんの話では、あと少しおそかったら後遺症がのこっていたそうなので、救急車が早くきてくれてよかったです。

二つ目は、僕が通学している通学路の整備についてです。僕が通学している通学路の一部がカーブの下り坂になっていて、そこは毎年夏に草やつるが伸びていて、下の方から上がって来る人が見えずに危なかったけど、毎年、整備する人が汗だくになりながら草を切ってくれて、安全に通学すること

とができていることです。

三つ目は、僕の学校生活に必要な教科書などの教材についてです。インターネットで一人の中学生に税金がいくら使われているか調べたら、一年間に約百万円の税金が使われていることが分かりました。この税金で教科書などが無料で配布されていることが僕は感謝しなければいけないと思います。

このような、生活に必要な税金を納めてくれているのは、僕たち子どもではなく、働いてくれている親など、大人の方々です。僕たち子どもも買い物をして消費税として納めています。すべての税からするとそれはほんのわずかです。僕たち子どもは、大きな額の税金を納めることはできませんが、その税金を無駄にしないようにすることはできると思います。

だから、税金で買ってもらっている教科書などでたくさん真面目に勉強して、親などが払ってくれた税金を無駄にせず、毎日を過ごしたいと思います。そして、僕たちが大人になったときに、いままで支えてくれた親たちのように、家族が安心して生活できるようにして、社会に役立つ人間になりたいです。

和水町教育長賞



菊水中学校 三年 渡邊 美咲

『税金のある暮らし』

「私たちは、税金を支えながら生活している。」そんな事を考えながら生きている人は、あまりいないだろう。私も「税金って必要なものかな。」とたまに思うぐらいで深くは考えなかった。しかし、その考えが変わる出来事があった。

ある日、学校で租税教室があった。私は、「そんな事する必要ないでしょ。」と思っていた。

「税金はどんな所にあるかな。」そんな事を聞かれた。私は父が昔、仕事で給料を数えていて、税金の話をしてたのを思い出した。

私の父は、大工で家を建てたり、取り壊したりしている。また父は、祖父がしていた会社を引き継いで、一応社長のような立場らしい。そんな父は、仕事仲間に分ける給料を数えていた。その様子を見た私は、びっくりした。なんと、たくさんのお金で袋から出されているのではないか。私は、そんな大金を山分けするかと驚いていた。しかし、「これから税金が

引かれるんだ。」と父は言った。その頃の私はなぜ自分が働いて稼いだお金を引かれなければならないのか不思議でしかなかった。そんな事を思い出しながら租税教室は終わった。

私は、それまでの税金に対する考え方を変えざるをえなくなった。

あんなにいらないものだと思っていた税金は実は、私たちを援助してくれていたのだ。

例えば、病院などの薬にかかるお金。学校であたりまえのように使っていた教科書や机いすなどにも税金が使われている。

また、自然災害が多い日本では、東日本大震災や熊本地震。最近では大雨による洪水などの被害を受けている。その際にも税金は支援をしていたのだ。

私達が普段あたりまえのように生活している日常も実は、信号やゴミ収集車など税金によって動いているものであふれている。そんな税金が無くなってしまうとどうなるのか？道路は穴だらけ町はゴミであふれ、きっと今まで私達があたりまえのようにできた事は、税金によって支えられていたからできた事も少なくはないだろう。

私は、今回の租税教室を通して、私達は税金があるからこそ、あたりまえのように便利な日常が送れていることを学んだ。

今まで支えられていた税金を、私達国民が納める事は私達の義務であり、責任である。私達は税金を支えられながら生活している事を忘れてはならない。